

## 第9回本明川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会 議事要旨

日 時：平成28年2月25日(木)15:00～16:30

場 所：L&Lホテルセンリュウ 2F 宝竜の間(諫早市)

### 事務局からの説明

- ・ 現時点の事業進捗について報告した。
- ・ 長崎県環境影響評価条例に基づく事後調査手続の予定について報告した。
- ・ 環境保全措置、事業者としての配慮事項に係る検討状況について報告した。

### 主な意見

#### ○ 事後調査、環境保全措置、配慮事項の方針について

##### 【水 質】

- ・ ダム建設後については水質予測精度の向上に向けた検討等を行うとされているが、工事中の濁質やpHについても十分に留意し、実際の工事を進めてほしい。
- ・ 今後、貯水池の水質予測精度向上に向けた検討を行うにあたっては、出水時に流入する高濃度の濁質を速やかに流下させる等、設備の効果を高める検討を行ってほしい。
- ・ 貯水池への汚濁負荷流入量について、L-Q式は広範に亘るデータを基に平均的に設定されているが、実際には、出水ごとに流量等の状況は異なっている。L-Q式による水質の時系列変化の算定には課題があり、条件設定等にあたって注意を要する。
- ・ ダム下流の濁質濃度は、環境基準値等との比較のみならず、ダムの建設前と建設後の比較(濃度や濁水長期化日数)でも評価してほしい。

##### 【動植物・生態系】

- ・ 植物の移植は注意して実施してほしい。ランであれば菌との共生を考慮する必要がある。
- ・ 湿地・草地環境の整備と維持管理にあたっては、草地への外来種の侵入やイノシシの獣害等に留意するとともに、地域との連携や利活用を図ってほしい。利便性も重要である。
- ・ カジカ(中卵型)は試験移植先に定着しているが、移植先における個体数の増加には限界がある。今後、移植先の分散等を検討し、移植を進めてほしい。
- ・ シジミガムシは止水環境に生息する。近年、知見が蓄積されており、流水環境でシジミガムシ属が採集された際は同定に留意してほしい。
- ・ ダム下流では、流量を維持することで河川環境の保全に努めてもらいたい。
- ・ 事業の実施にあたっては、外来種の侵入防止や駆除に配慮してほしい。

##### 【歴史的文化的環境】

- ・ 地域との関わりが重要な巨樹等への影響が及ぶ場合、保全を図ってほしい。

#### ○今後の予定

- ・ 今後、事後調査計画、事後調査報告について検討するにあたり、年1回程度、技術検討委員会を開催予定である。